

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年5月実施の学力調査の正答率について、基礎問題では78.6パーセント、活用問題では46.4パーセントだった。基礎問題は目標値を上回っていたが活用問題では目標値を下回っている。学習した事項を活用する能力に課題がある。 令和4年5月実施の学力調査の正答率について、「手紙のへんじを書く」「文しょうを書く」という問題の正答率はそれぞれ28.6パーセント、38.1パーセントと、目標値を大きく下回っていた。問題を解く順序や時間配分等の問題もあるが、事柄の順序に沿って構成を考えながら書いたり、自分の思いや考えが明確になるように文章を書いたりするということに課題があると言える。 上記の傾向は令和3年度実施の学力調査の状況と大きな変化はない。しかし、「読むこと」や「主体的に学習に取り組む態度」などの項目は、令和4年度の調査では大きく改善している。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の授業改善推進プランでは、「文字や文章を正しく読む」ということについては記載があるものの、「書くこと」については課題として挙がっていない。これは小学校第1学年段階において、文や文章を書くという活動がそもそも少なく、課題として顕在化していないことが理由として考えられる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科に限らず、毎授業、学習の振り返りをノートに記載している。授業を通して分かったこと、考えたこと、疑問に思ったこと、次時の学習へのめあてなどを書かせ、文法的な修正箇所がある場合には、赤を入れた上で個別に呼び、指導している。 週1回程度、作文の宿題を出している。文法的な修正箇所がある場合には、赤を入れた上で個別に呼び、指導している。 夏休みの宿題として読書感想文を出している。その際、話型として感想文の型を指導し、「書くこと」に対する抵抗感を減らして取り組むことができるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の振り返りや宿題での短作文指導。</p> <p>②話型を示した上で取り組ませる作文活動。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期以降のノートや宿題で取り組んだ短作文において、文法的な誤りがないかどうかを確かめる。</p> <p>②話型どおりに、かつ文法的に正しく書くことができているかを、2学期以降の作文活動の取り組みごとに確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の振り返りや宿題での短作文指導。</p> <p>②話型を示した上で取り組ませる作文活動。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期以降のノートや宿題で取り組んだ短作文において、文法的な誤りがないかどうかを確かめる。</p> <p>②話型どおりに、かつ文法的に正しく書くことができているかを、2学期以降の作文活動の取り組みごとに確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①学習の振り返りや宿題での短作文指導。</p> <p>②話型を示した上で取り組ませる作文活動。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期以降のノートや宿題で取り組んだ短作文において、文法的な誤りがないかどうかを確かめる。</p> <p>②話型どおりに、かつ文法的に正しく書くことができているかを、2学期以降の作文活動の取り組みごとに確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度の学力調査において、第3学年社会科の調査はない。
- ・写真資料から課題を読み取ったり、地図などから課題を見出したりする力に課題がある。
- ・身近な地域の学習に対して、地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和2年度、社会科は未修学である。
- ・令和2年度「生活科」において、「学校や地域について関心をもつ」ことに課題があり、「学校探検で多くの人と関わったり、地域の行事を話題に取り上げたりする」という改善策が示されている。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・写真や地図から課題を見出すことができるよう、複数の資料を比較する活動を多く取り入れている。
- ・地理的に学ぶことが難しいテーマについては、オンラインでの資料をたくさん用意している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①比較検討がしやすい複数の資料を用意し、資料から課題を見出すことができるようにする。
- ②オンラインを活用した資料を用意し、地域的に難しいテーマの学習内容でも理解を確実にできるようにする。

<検証方法>

- ①年間を通して、テストの「資料の活用」の項目において、B基準以上を達成している。
- ②年間を通して、「店ではたらく人」「火事からくらしを守る」等のテストの「知識・理解」の項目において、B基準以上を達成している。

4. 検証結果(成果と課題) **【年度末に記入する】**

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 **【年度末に記入する】**

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 **【年度末に記入する】**

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 算数科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年5月実施の学力調査の正答率について、「ひょうやグラフ」が64.3パーセントと、目標値をやや下回っている。領域としては「データの活用」領域が64.3パーセントであり、目標値をやや下回っている。ただし、当該問題は学力調査における最終問題であり、時間配分を誤って問題を解ききることができず無回答となった児童の割合が一定数いた。本校は学年の母数が少なく、正答率がたまたま目標値を下回ってしまった可能性も考えられる。この場合、問題を時間内に解ききるための“題意を読み取る力”が課題となってくる。
- ・「ひょうやグラフ」以外については、おおむね目標値とほぼ同じか、若干上回っている。しかし、各問題に対しての誤答の割合が一定数存在することから、学習内容の定着度合いについて、児童間に開きがあることが考えられる。
- ・令和3年度実施の学力調査の正答率を見ると、「とけい」の項目に課題があった。令和4年度の「時こくと時間」の項目は、目標値を上回っている。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「文章から題意を読み取り、立式する」という課題に対して、「具体物や図を用いて、文章の場面が具体的にイメージできるよう支援する」と記載されている。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・算数科に限らず、文章を読む際には主語、述語が明確になるよう声かけをしたり、“何が問われているか”が分かる箇所に対してアンダーラインを引かせたりするなどの支援を行っている。
- ・絵や図、写真などを提示して、文章に書かれている状況を正しく把握することができるよう支援している。
- ・文章を読み、その場面を線分図、数直線などの図に自力で書き表す時間を設定している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① “何が問われているか”を明確にするための支援。
- ② 問題解決に図などを活用することの習慣化。

＜検証方法＞

- ① 2学期以降のノートやテストの文章問題において、問われている箇所に自分でアンダーラインを引くことができているかどうかを見取る。
- ② 2学期以降のノートやテストの余白の使い方等から見取る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 理科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学力調査において、第3学年理科の調査はない。 ・既知の事象においても、科学的な手順を踏まえて検証しようとする態度に課題がある。 ・確かめたいことを検証する手段として、正しい実験手順を組み上げる力に課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度、理科は未修学である。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的に検証されていないことによる矛盾や勘違いを提示して揺さぶり、科学的な検証の価値を実感できるようにする。 ・科学的な検証手順を示し、その手順に沿って検証していくことを習慣化させる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①矛盾や勘違いを例示することで、科学的な検証の価値を見出すことができるようにする。</p> <p>②科学的な検証を習慣化させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期末、3学期末にアンケートを実施し、回答の変化を検証する。</p> <p>②2学期以降の学習場面において、教師が提示しなくても手順に沿って検証を進めようとしているかどうかを見取る。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①矛盾や勘違いを例示することで、科学的な検証の価値を見出すことができるようにする。</p> <p>②科学的な検証を習慣化させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末、3学期末にアンケートを実施し、回答の変化を検証する。</p> <p>②2学期以降の学習場面において、教師が提示しなくても手順に沿って検証を進めようとしているかどうかを見取る。</p>
<p><方策></p> <p>①矛盾や勘違いを例示することで、科学的な検証の価値を見出すことができるようにする。</p> <p>②科学的な検証を習慣化させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末、3学期末にアンケートを実施し、回答の変化を検証する。</p> <p>②2学期以降の学習場面において、教師が提示しなくても手順に沿って検証を進めようとしているかどうかを見取る。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童はA85%、B15%となっており音楽への関心が高い。しかし、「学習したことをわかっている」という項目についてはA70%、B15%、C15%となっている。令和2年度にさかのぼるとこの2つの項目については85%の児童がA(はい)と答えている。歌唱表現はとても優れており、どの学年よりも意欲をもって歌う。しかし、器楽の単元になると、説明を聞いて演奏するが、音は合っているが運指を守らない、正しい姿勢で演奏しないなどの課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

○楽しく音楽に関わり、音楽表現を楽しむために必要な基礎的な技能

- ・楽しくできる音階練習や、馴染みのある歌を繰り返し練習する。
- ・リズム遊びで、交流する場面を多く設定する。言葉による指導とDVD視聴を併用して、内容を分かりやすくする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

歌唱分野については、おおむね達成しており、良い部分を伸ばしていくためにも引き続き、なじみのある歌を繰り返し歌唱していく。また、歌唱に関してはさらに発展させ、少し難易度の高い曲も挑戦し、「できる」を体感させ、音楽に対する興味を維持させる。過去2年間の音楽の授業アンケートを分析した結果、小学3年生が「学習したことをわかっている」から「わからなくなってくる」の分岐点のため、音楽の知識や技能に関しては丁寧な指導が必要である。器楽に関してはお手本となるDVDを見せながら、正しい運指や正しい姿勢をしないとこんな音になるなど実験的に見せて、そして自分を振り返らせ、「できる」を体感させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①学期ごとに行う授業アンケート

②授業内の実技発表

<検証方法>

①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析

②授業内での実技発表の分析

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 図画工作科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「図画工作科の授業が好きか」という項目に関して、7名中6名が「はい」、1名が「どちらかというといいえ」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、7名中5名が「はい」、2名が「どちらかというといいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・【課題】①自己の表現したいものを様々な方法で表現する。
【改善策】①表現することで、新たな表現方法に出会う楽しさを味わえる学習環境を計画する。
【評価】①単元のなかで、友達との共同作品を作る機会を図り、気軽に表現方法を模倣できる環境にしたことで、表現を応用しようとする姿勢が身に付いてきた。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・表現活動においては、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使えるように、図工室だけでなく、廊下や中庭、校庭などの母島小中学校の環境を活かして、創造的につくったり表したりできるように指導を行う。
- ・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。
- ・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施
- ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。「体育科の授業が好きか」という項目において、否定的な回答をしている児童も見られた。主体的に学習に取り組んでいくことができるよう、授業改善を行っていく必要がある。 ・令和4年6月実施の新体力テストにおいては、全ての分野で高い記録を示している児童が複数いる一方、「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」等で記録が伸び悩んでいる児童が散見された。このことから、児童によって体力に開きがあることが分かる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度では、「楽しく運動に関わり、活動に意欲をもつ」ことに課題があり、「ゲーム的な要素を取り入れた運動遊びを多く設定する」という改善策が示されている。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高めることができるよう、よい点をその場ですぐに取り上げ、称賛する。 ・誰でも取り組める、易しいルールของเกมを設定する。 ・児童がお互いによかったところを称賛し合える場を設定する。 ・分かりやすい技能のポイントを、複数用意し、自分に合ったものを選択できるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①自己肯定感を高める声掛けや授業設計。</p> <p>②分かりやすい技能ポイントの提示。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p> <p>②年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①自己肯定感を高める声掛けや授業設計。</p> <p>②分かりやすい技能ポイントの提示。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p> <p>②年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p>
<p><方策></p> <p>①自己肯定感を高める声掛けや授業設計。</p> <p>②分かりやすい技能ポイントの提示。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p> <p>②年度末にアンケートを取り、肯定的な回答の増減を見取る。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>			